# 「プロのネイティブチェッカーによる英作文添削講座」のご案内

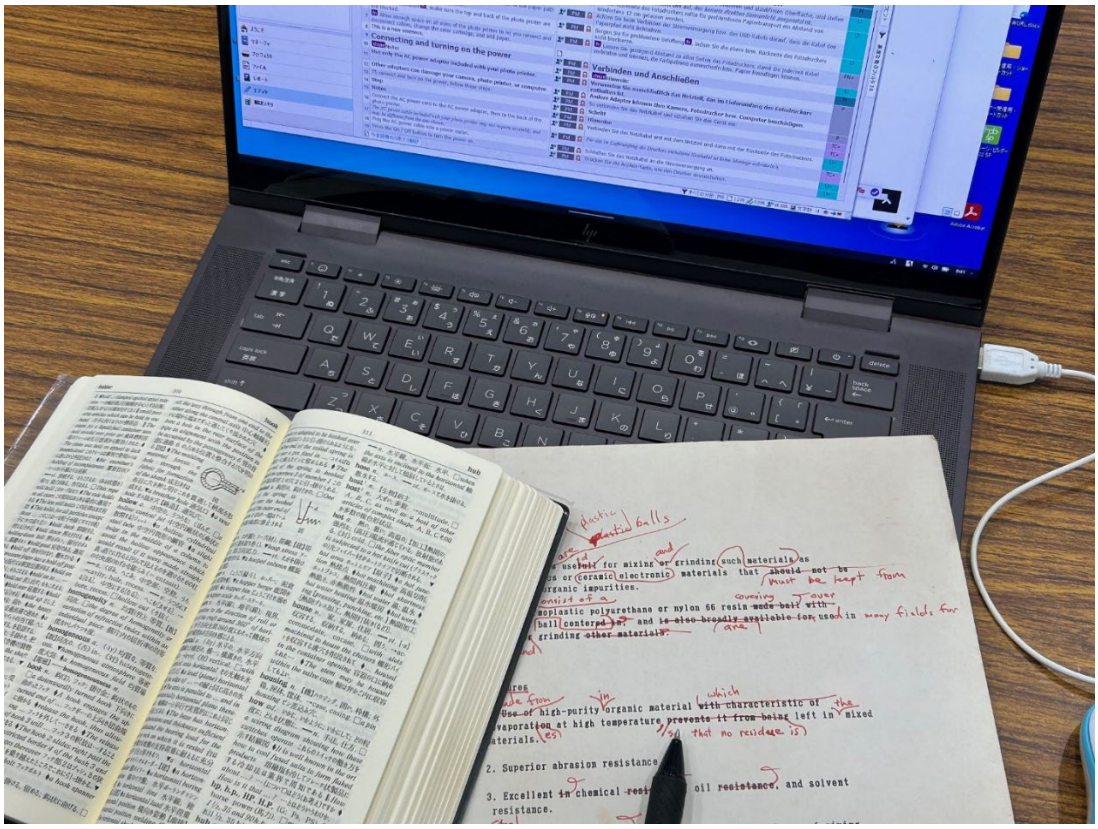
本講座は、ご自分でまとめられた英作文を、弊社のプロのネイティブチェッカーの添削と上級翻訳者の総合レビューによりブラッシュアップすることで、ワンランク上の英語力を養う**「プロのネイティブチェッカーによる英作文添削講座」**です。

プロのチェックを受けることにより、皆様の英語能力をさらに向上させてみませんか？

本講座では、以下のことを主眼とします。

- 原文である日本語の学び直しと日英の表現比較の学習
- 英文法の再確認（単一のセンテンスだけでない、文章全体の論理の学習）
- ネイティブチェックによる、ネイティブ志向の、より洗練された英文表現の学習
- 対象とするテーマの専門語彙や知識の向上
- 対象とするテーマを繰り返し考察することにより推論能力の向上を図る
- テクニックや小手先の学習に依存せず、地力のある英語力を身につける

| | |
|---|---|
| 対象 | ビジネスの世界で自身の英語能力をさらに高めたいとお考えの方、<br>難関校を目指している受験生、<br>各種検定試験の上級レベルを目指している方、<br>実践応用の場で地力のある英語力を身につけたい方、<br>英語学習の学び直しをお考えの方、<br>小中高の学校や教育機関で英語教師として活動されている方、<br>大学・研究機関で論文発表とそのスピーチ原稿を準備中の学生・研究者の方々、<br>自身の翻訳能力をさらに高めたいとお考えの翻訳者、 |
| 受講能力 | 通信／通学等によるカリキュラム型の講座は一通り終えて、すでに基礎能力は備えているとご自身で判断されている方 |



## 英語の話題に触れる前に

年齢によっても違いがあると思いますが、最近、ご自分で文章をお書きになることはあるでしょうか？もちろん、日本語のことですが。

### ワープロの出現によって

- 手書きではなく、パソコンでキーボードを打ちながら文章を作成することが多くなった。
- その結果、手書きが下手になった、漢字の書き順がわからなくなった、漢字をすぐに思い出せなくなった(ワープロで文字入力変換で確認する)、そう感じられる方も多くなったのではないでしょうか？

### SNS の出現によって

- さらには、SNS の普及で、若い世代においては、ワンフレーズ的メモ伝達文に慣れてしまい、ちゃんとした文章が書けなくなった、そう感じておられませんか？

### そして、この先どうなるか？

を考えると、

**生成 AI の出現に伴って、人の脳は退化する**　傾向になるのではと危惧しています。

いや、危惧というよりは、間違いなく退化していくと考えています。

人間がものを考える努力をしなくなれば、日本語、英語、またどの言語であろうと、間違いなく退化します。

本講座は、英作文の添削講座ですが、英作文添削を通して、生成 AI などに依存せず、自分の力で翻訳することで、物事を自分で考え、追求する力を養う、原文とする日本語文と訳文として仕上げる英文を対比させながら、両方の言葉の語彙や表現を身につけていこうとする講座です。

学校や塾、予備校、通信教育などで、基本的な文法的知識や読解力、英作文は、非常に大事なもので、例えて言えば、プールでのスイミングスクールと言えます。

最近は、赤ちゃんの頃からお母さんと遊びながら水慣れし、水慣れしたところで、ビート板を使ってバタ足や息継ぎなどを学びます。少しすると、ウルトラマンやスーパーマンのような背伸びポーズで 25mを時々息継ぎしながら進み、しまいにはビート板無しでも到達できるようになります。ここまでくると、手かきと息継ぎを教えられ、あっという間にクロールの泳法を覚えます。この後は、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライと進みます。小さい頃から通っていると、小学生を終える頃には 4 泳法を覚えて、中学生、高校生へと進み、最初の頃はぎこちなかった動きも、手の動き、足の動き、息継ぎ、すべてが熟練度を増していきます。

すべての学問に言えることですが、とりわけ、英語の学習も同じと言えます。我流によらないで、きちんとした指導を受けながら、入門から、基礎、中級、上級、へと進みます。

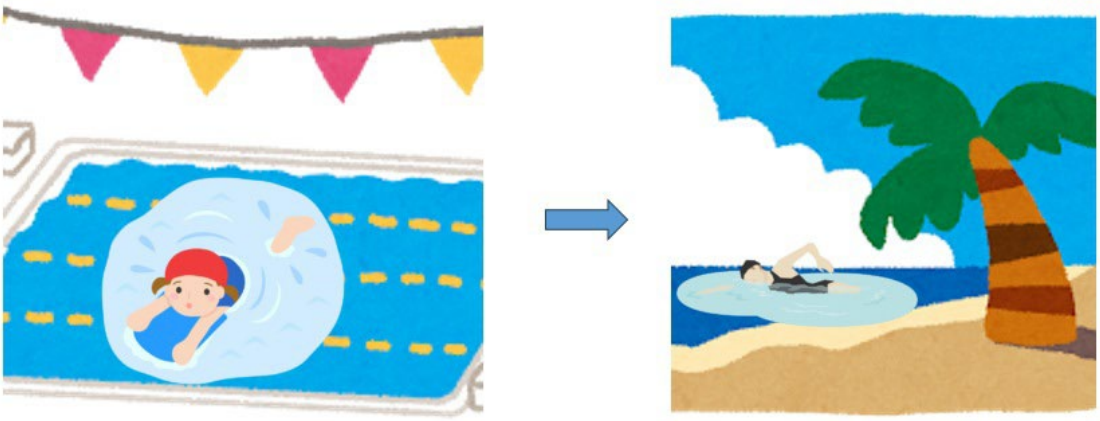
しかし、ここに落とし穴があります。泳ぎを覚えたということは、あくまでプールの中で泳げるようになったということでしかありません。プールでは、疲れたと思えば立つこともできます。雨も降りません。大きな流れや波があるわけでもありません。すべてが安全な環境です。この状態で、いざ海や川で泳ごうとしたらどうでしょう？船に乗っていて、船が難破し、嵐の海に放り出されたとしたらどうでしょう？自然界の海や川で、プールで覚えた泳ぎがそのまま通用するでしょうか？足は立ちませんから立ち泳ぎをせざるを得ません、大きな波が襲ってきます、雨も降ります、風も吹きます。塩水も目に入ると痛いです。

実は、英語学習もこれと同じです。様々な方法で英語を学んだとしても、それらがそのまま実践の場でパーフェクトに通用するわけではありません。数々の検定試験を受けて高得点や上級レベルに達したとしても、それらはひとつの目安（yardstick）に過ぎません。

また、「英語ができる」ということを「英会話ができる」という意味にとらえる傾向がありますが、それは正しくありません。多少の日常会話や旅行会話はできたとしても、深い話やディベートができなければ、「英語ができる」とは言えません。また、ごく人並みの英会話ができたとしても、きちんとした英文が書けなければ、それもまた「英語ができる」とは言えません。

つまるところ、「英語ができる」とは、話すことも書くこともできる総合力になります。むろん、このことは日本人にとっては母国語である日本語にもあてはまります。

これらのことを踏まえて、弊社が創立（平成元年／1989 年）以前の活動も含めて、40 年以上の産業翻訳（技術翻訳・実務翻訳）で培ってきたバックグランドをベースに、実際の現場で活躍するネイティブチェッカーと上級翻訳者が、受講者の皆さんの英語能力向上をお手伝いしたいと思っています。
本講座は、ご自身で基本的英語学習をやってきて、さらに自分の英語能力を向上させたいという方が対象になります。上記のたとえで言えば、プールから海のレベルに挑戦してみようということです。いわゆる、実践的応用編になります。



題材は、すべて自分で選んで頂きます。新聞や雑誌等の社説、論説、特集記事、日常のトピック、歳時記、社会や歴史などの教科書、など、何でもかまいません。誌上に取り上げられる記事は、いずれも掲載記事として評価されていますので、原文としては申し分ありません。社説・論説においては、選抜された一流の論説者によって執筆されています。日本語原文内の個々の語彙、表現、テーマ、主張の論理展開、など、原文をなぞってそのまま書き写すだけでも、日本語の文章能力を向上させることができます。

テーマも、少子高齢化、都市部への一極集中による地方の過疎化などの社会問題から、地球温暖化や環境問題、福祉と医療、話題には事欠きません。一流の執筆者がまとめる内容は、視点も鋭く、各テーマを考察することで、知識や語彙も増え、何よりも考える能力が高まります。それらの文章を真似て書き写すだけでも大きな効果があります。そういったものに慣れてきたら、今度は、自分で、自分なりの考えをまとめたエッセイをまとめてもかまいません。日記などの徒然手記などでもかまいません。**書き言葉で培った能力は、そのまま英会話においても、知らず知らずのうち、高度な内容のディベートに反映されていくことは間違いありません。**

（補足:ただし、第三者の記事を題材として利用することとその訳文は、あくまで自分の独自学習のためであり、それ以外の目的のために公表したり、利用することはできません。独自作成のものであれば、その限りでありません。）

自分で書いた英文をネイティブにチェックされると、真っ赤になってチェックされた添削内容が返されてきます（昔は、赤ペンの手書きでしたが、現在はソフト上で修正機能を使った記入チェックします）。子供の歌に「真っ赤だな 真っ赤だな」で始まる「まっかな秋」というのがありますが、まさに替え歌になって「真っ赤だな 真っ赤だな、私の英文、真っ赤だな」と愕然とするかも知れません。

でも、大丈夫です。それが、皆様の貴重な財産となり、そこからがスタートです。血染めのように真っ赤になった添削を何度も何度も見直し、何度も何度も書き写していくことで、確実にご自分の能力は向上していくとお考えください。

翻訳の世界では、それを前提として、さらに技術や実務における専門知識を学んでいかなければなりません。技術は、日進月歩のように進みますので、進歩するその技術内容を絶えず勉強していかなければなりません。数十年前の、翻訳会社の翻訳者募集の欄には、「最低５年以上の経験を要す」というのが一般的で、普通は、その時点で履歴書を送れないというのが現実でした。

最近は、生成 AI を利用した英文添削サービスというものを見かけますが、ごく普通の文章であれば、文法規則によってチェックすることはできるでしょうが、文章全体における筆者の考えのプロセスを、人間の感性で受けとめ、それを的確に表現するということはできません。一つの考えを文章としてまとめることは、やはり人間の感性であり、またそれを翻訳あるい添削することも人間の感性です。それに勝るものはありません。

ある著名な技術翻訳者の方が引用された言葉があります。それは、スペイン語の格言に「Poco a poco se va lejos」（人は少しずつ遠くへ行く）というもので、「地に足をつけて、一歩一歩、歩むほかに自身の精進はない」というものであります。

本講座を受ける、受けないにかかわらず、英語道に励んで頂ければと思います。

ここでは、少し十代の受験生を念頭に書きましたが、すべての方々にあてはまります。

新たな学びや、また学び直しということで、様々なことに挑戦されている高齢者の方も増えてきました。

上記で触れた技術翻訳者の方は、「翻訳は知的ゲームである」とおっしゃったことがありますが、まさに知的ゲームです。ぜひ、学び直しとして、挑戦してみては如何でしょうか？

また、当然のことながら、実社会のそれぞれの場で活躍されている方々もぜひ挑戦して頂ければと期待しております。実際に英語指導されている方、会社内で英語を使われる方、大学や研究機関で英語で論文などを書く機会のある方々にも有効であると思っております。

以上、皆様のチャレンジをお待ちしております。

補足:

- この案内では、和文英訳の添削を中心にお話しましたが、英文和訳の添削をご希望の方がいれば、そちらも承りますので、ご相談ください。
- また、自分は上級レベルではなく、中級レベルだという方には、自分なりの考えをまとめたエッセイ、日記などの徒然手記などで試すこともできます。
- 現時点でカリキュラム型の勉強をやった方がよいと思われる方には、他社の通信・通学の講座等、また勉強方法をご紹介することもできます。

利用方法ならび料金等の具体的なことにつきましては、当サイトの「お問い合わせ」より、
「お名前、ふりがな、ご連絡先のメールアドレス、お電話番号」にご記入の上、
「お問い合わせ内容」に「自由英作文添削講座の利用に関する案内希望」とご記入の上、「確認」ボタンを押して送信して頂ければと存じます。
追って、こちらより利用法の案内を弊社の電話番号も添えてご返信させて頂きます。

Poco a poco se va lejos」(人は少しずつ遠くへ行く)

英語道に、コスパ／タイパはありません。皆様の精進をお祈りしております。

**最後に:**

本講座を学習されることで、その翻訳技量や取り組む姿勢が十分評価される方には、弊社の翻訳者として登録させて頂き、翻訳をお願いする場合もあります。ある日突然、その時が訪れるかも知れません。